International Institute of Multi-Cultural Studies

特定非営利活動法人

国際比較文化研究所

■ Newsletter ■

Vol. 14　No.1　　2013 年　4 月

驚の宮卓話

這えば立て、立てば歩け…

研究所理事長　太田敬雄

何事にも時が有り
天の下の出来事にはすべて定められた時がある。
生れる時、死ぬ時
植える時、植えたものを抜く時
　（中略）
求める時、失う時／保つ時、放つ時
裂く時、縫う時／黙する時、語る時
愛する時、憎む時／戦いの時、平和の時。

『旧約聖書』「コヘレトの言葉 3:1～8

１年前、私も本物の「おじいちゃん」になりました。先日は孫の１歳の誕生祝をしました。

実は私を「お父さん」あるいは「おじいちゃん」と呼んでくれる若者が大勢います。インドネシアからの電話に出ると、いきなり「お父さん、元気？」とか「おじいちゃ～ん。…」とはじまることが頻繁にあります。とっても嬉しいものです。そういうつながりをこれからも大事にしていきたいと願っていますし、これからはインドネシアから「おじいちゃん」と呼びかけてくれる若者がどんどん増えていくことが私の願いでもあります。

それにしても、血縁の孫、それも生まれた時から成長を見ている孫は、やっぱり皆さんが言われるように可愛いものです。「目の中に入れても痛くない」という言葉を大げさではないと感じている自分に笑ってしまいます。

生れてから一年の孫の成長のスピードは驚くばかりでした。寝返りが出来るようになったかと思えば、次に会った時には這い始めています。そしてつかまり立ちを始める。子どもは身体の成長に合わせてどんどん新しいことを始めていくのですが、私たち、大人は欲張りなもので、一日も早く次の段階にいって欲しいと思ってしまいます。まさに「這えば立て、立てば歩けの親心」で、これは祖父母でも全く同じことでしょう。

近くに同じ年頃の子がいたりしますと、大人の中には余計な競争心なども芽生えてくるものです。そこで、立つ練習をさせ、歩く練習をさせ、話す稽古、読む稽古をさせ…と、きりが有りません。そのような大人による訓練が実はほとんど意味がないことは、ずいぶん昔から教育心理学の分野で実験を通して証明されています。個人差はありますが訓練をしようと、しなかろうと、出来るようになるのはほぼ同じ時期なのだそうです。

成長を願い、祈る気持ちは大切です。けれども、子どもの成長をやたらに促そうとすることは、無駄なばかりでなく、時には逆効果にもなります。子どもが自らやろうと思う時、それはわくわくすることですが、周りの大人がやらせようと「指導」すると、子どもにとっての喜びもワクワク感も無くなります。

大人のやるべきことは、子どもが何かをする気になった時に、それに取り組めるように環境を整えておくことではないでしょうか。環境を整えておきさえすれば、その時が来たときには、子どもは必ずその環境を生かし始めるものです。子どもに与えられた「成長の時」を知ることは大変な、けれども最高に楽しい仕事ではないでしょうか。

総会のお知らせ

今年の総会は例年より少し早く、5 月 11 日に開催します。会員の皆様のご意見を拝聴しながら、皆さんと共にこれからのＩＩＭＳの活動を方向づけて参りたいと思います。
日時：２０１３年５月１１日（土）午後２：００より３：３０
会場：まなぱるＸＤ　安中市安中２４５６－２
議題：２０１２年度事業報告・会計報告、２０１３年度事業計画、予算。
同封のハガキで参加・不参加をお知らせください。ご欠席の方は、委任状をお願いします。

再度　認定ＮＰＯ法人格取得について

認定ＮＰＯ法人格取得については皆様に大変ご心配いただいています。何よりも理事長の認識不足により、皆様にご心配をおかけしておりますこと、お詫び申し上げます。

前号で「2011 年度に頂戴いたしました皆様からのご寄付は一度お返し致します。お手数ではありますが、3 月中にご返還の振込先口座情報をお送りくださいますよう、重ねてお願いします。3 月中にご連絡の無かった場合は、2012 年度のご寄付とさせていただきます…。」とご連絡しました。返金の口座をお知らせ下さらなかった方のご寄付を 2012 年度のご寄付に振り替えるつもりでしたが、その後、監査の方から問題であると指摘されました。**＜金融機関を通した受け取り直しもせずに、帳簿上の操作だけで、年度を変更しようというやり方を「帳簿操作」とか「粉飾決算」とか言います。＞**とのこと。　皆様のご意志を生かすために考えたことでしたが、それが善意であれ、やはり「帳簿操作」をしてはいけないとの結論に達しました。

つきましては、次の二点を踏まえてこれからの活動を進めて参ります。（1）研究所の本来の活動を大事にすすめながら、皆様に支えていただける活動に専念することで認定を目指します。（2）2011 年度に認定を取るためにご寄付下さった方には約束違反となってしまったことを深く反省しご寄付をお返しいたします。

つきましては､改めて 2011 年度のご寄付を返金させていただく銀行口座もしくは郵貯預金口座の口座番号とお名前をお知らせください。お手数をおかけしますが、よろしくお願いします。

～多文化交流を体験して～

二度目の多文化交流 IN マラン

常葉学園大学 2 年　杉本有規

私は常葉大学で日本語教育を専攻しています。大学の講師の紹介で昨年、多文化交流 IN マランに参加しました。昨年の多文化交流の楽しさや友達になったインドネシアの人たちにまた会いたいという気持ちから今年も参加しました。

2 度目のマランは初めてのマランに行った時とは違った驚きや発見、学びがありました。私が 2 度目のマランに着き、一番驚いた事は街の変化です。道路が綺麗に舗装され、所々に信号が取り付けてありました。また走っている車も新車や AT の車が増え、マランという街が 1 年で急速に成長している事を感じました。私たちが訪問したブラヴィジャヤ大学もまた大きく変わっていました。大学内の道路や校舎が新しく綺麗になっていました。

街の変化を実感できるのは 2 度目の参加者ならではの驚きです。

昨年のマランから 1 年。私の日本語教育の知識も増えました。日本語を母語としない外国人に日本語を教えるのが日本語教育ですが、その教え方には注意すべき点がいくつかあります。その中の一つに発音の注意があります。その国の言語にはクセがあり、そのクセを直さないと正しい日本語の発音にはならないという事です。

インドネシアの人たちにもクセがあります。それは、「しゅ」が「す」になるという点です。例えば趣味（しゅみ）の発音を「すみ」と発音してしまう事です。実際にそういった発音をしているインドネシアの学生がいて、日本語教育に面白い発見でした。

1 度目も 2 度目もとても楽しかったです。それに自分の成長も出来ました。

この機会をくださった太田先生、マコ先生、多文化交流のスタッフの皆さん、また関わった全ての人に感謝したいと思います。

お別れ会で司会をする杉本君と脇さん

バティックで並ぶ男たちをバックに、アイ・ラブ・マランのＴシャツ姿の杉本君

多文化交流 in マラン 2013

群馬県立女子大学 4 年　岡村静香

私は英語が得意ではありません。大学で英語の必修単位が取り終わってからは、英語を使う機会を避けてきました。そのため、個人的に海外に行くことは半ば諦めかけていました。それでも大学生活最後の思い出として海外に行きたい、そのような時に見つけたのが、この多文化交流 in マラン 2013 でした。

この多文化交流プログラムに参加した 10 日間は私にとって忘れられないものとなりました。今回のプログラムで初めて外国に友人が出来たからです。そして「多文化」や太田先生がおっしゃった「平和な地球社会をつくる」ことについて考える機会になったからです。

マランでは、パートナーやスタッフと一緒に行動する時間がとても長かったです。そのため、どうしたら彼らが楽しいか、無理をしていないか、相手の気持ちに寄り添おうと考え続けて行動する日々でした。

ブラウィジャヤ大学の学生とのディスカッションに集中する岡村さん

相手の気持ちを考えて行動する――このことは普段の生活で当たり前に行っていることです。しかし、私が相手の立場に立って考え行動することを当たり前に出来ているのは、日本での生活だけでした

これまでの自分自身の海外旅行を思い返すと、当たり前のことが出来ていなかったのです。現地の人と交流する時には英語でした。苦手な英語では困ったときにその状況や要求を伝えるのが精一杯で、その場を乗り切ることが第一になっていました。相手のことを考える余裕がありませんでした。また、文化の違う海外では、自分自身の気持ちを伝えられず窮屈な思いをするのは仕方がないという気持ちもありました。

一方、日本語で交流したマランでは、普段友人たちと一緒に過ごすようにスタッフやパートナーたちとの行動を楽しむことが出来ました。言語での不安がなかった分、インドネシアの文化をたくさん知って帰ってこようと積極的にもなれました。

いままで英語が話せないことを理由に、他の言語や文化の人々と自分は全てを分かり合えない、深く付き合える友人にはなれないと決めつけていました。そのため「平和な国際社会をつくる」ことはどこか他人事でした。壮大すぎるとも思いました。

しかし、コミュニケーションのために言語も重要ですが、その前に、相手に寄り添おうという気持ちを持てば、私でも他の文化の人と友人になれることがわかりました。

私とインドネシアの友人たちとが理解し合ったことは「平和な国際社会をつくる」ためには小さすぎることかもしれません。ですが、このような小さな小さな一歩が集まることで、壮大だと思ったこともいつか叶うのではないかと本当に思いました。

最後に、このような経験が出来たのは日本語を一生懸命勉強して話すことが出来るインドネシア人参加者やスタッフのおかげです。もしこのプログラムの使用言語が日本語以外だったら私はこのような発見をすることが出来なかったでしょう。インドネシア人参加者は、パートナーになるために面接とエッセーの提出があるということをホストファミリーから聞きました。

また、このプログラムを企画しチャンスをつくってくださった先生方、一緒に行った日本人参加者にも感謝の気持ちでいっぱいです。多文化交流 in マラン 2013 に関わった全ての方々にお礼を申し上げます。

＜四月に入り、岡村さんは新社会人として働き始めています＞

パートナーの学生たちのパフォーマンス
見事でした！

いよいよお別れです。再会を誓って和やかに…。毎年「行くぞ」という引率の声が無視されるところです。

ミニ多文化交流in群馬
釜山外国語大学校　キム ヨンホ

今回の多文化交流in群馬でいちばん記憶に残るものは「人との触れ合い」でした。日本に行くのが初めてだった人もいたし、そうでない人もいましたが、今回の多文化交流でとても楽しくて掛け替えのない思い出になりました。群馬に行く前に東京のいろんなどころを見て回りましたが、日本一の大都市の東京よりも高崎の田舎で学んだものや人との触れ合いが多かったと思います。

最初の日はみんなと会う前に、渡辺さんとなべ料理の材料をかいに行ったんですが、5人の男では何を、どれだけ、買えば分からなくて、岸さんに助けてもらいました。やはり「男も料理ができたほうがいいのかな」と思いました。その後、安中の学習の森でみんなと会って、キ岸さんたちがなべ料理を作ってくれている間に行った、はじめての露天風呂もたのしかったです。普通のお風呂は水蒸氣で息がつまりますけど、露天風呂は　息がつまらなくて長く入られました。なべ料理もおいしかったです。取材に来てくれた記者さんも一緒になべ料理が食べられて楽しかったです。

2日目の餅つきとだるま工房では日本の文化を学ぶことができました。新井さんのお宅で韓国の餅つきとちょっと違う日本の餅つきができて本当に楽しかったです。それと、だるまの目を片方だけ塗る理由も勉強できました。もう一つの目を塗ってほしければ願いをかなってくださいなんてだるまさんを脅すみたいで、ちょっと変でした。市役所で見ただるまが片方だけ塗られている理由を分かることができてよかったです。それから飲み会で韓国の飲み会ゲームをみんなに教えたりいろんなこと話し合ったりして、みんな打ち解けることができました。

3日目はグリーン牧場でした。韓国にはあまり牧場や動物園がないので、久しぶりに童心に戻った気分でした。全ての日程が終わって駅でお別れををする時はなんとなく涙出てしまうのには感動そのもでした。

人との触れ合いの大切さを、今回の旅行で東京観光と多文化交流in群馬ではっきり感じることができたのです。いかに発展した都市を観光するとしても、そこに人との触れ合いがなければ、ただ見て回るだけのことになります。逆にイノシシが出そうな田舎でも人との触れ合いがあるなら、一生忘れられない最高の思い出の旅地となります。

私は今回のミニ多文化交流 in 群馬で、いままでの日本旅行では味わえなかった、学べなかったものを経験することができて嬉しいです。イムー太田効果で素的な経験ができるように頑張っていただいた太田先生と林先生、ありがとうございます。それと、多文化交流に参加してくれたみんなにも感謝します。

イム先生も共に食べた、皆で作った夕食の味は？

新井家での餅つき：先ずはイム先生が手本を！

多文化交流 in 釜山・ソウル 2013

今年も韓国での多文化交流を実施すべく、準備を始めています。韓国の大学で日本語を専攻する学生達との交流プログラムです。

今年は 8 月 18 日（日）夕方に成田で前泊してのオリエンテーションから始まり、19 日（月）に釜山に渡航。**釜山外国語大学の学生達との交流**から始まります。春に群馬でのミニ多文化交流に参加してくれた学生達と再会の場にもなります。

24 日（土）には高速鉄道 KTX でソウルに移動し、明洞のホテルに泊まりながら、**檀国大学で日本語を専攻する学生達と交流**します。現在、両大学でプログラムを作成して下さっています。

26 日（月）にソウルのインチョン空港から帰国します。経費等未定の部分が多いですが、大体 12 万 5 千円前後になるかと思われます。

夏のご計画に入れておいてください！
一緒に韓国に行きましょう！

太田琢雄 「まなぱる」を語る

地域と子どもたち

まなぱる代表　太田琢雄

太田琢雄代表近影

私は六歳の時に安中の東横野地区に越し、その自然豊かな農村で学童期を過ごしました。放課後は裏山に基地を作り、桑からどどめを食べあさり、夏は小川でカニを捕り、夜には蛙の大合唱を聞く。冬は田んぼで球を蹴り、日が落ちた頃に母の声…思い返してみれば、贅沢な子ども時代でした。近所の方々にも温かく見守られ、我々子どもたちは当然のごとく、自分たちを取り巻く環境全てを信じて生きていたように思います。

学校帰りに、軽トラにのった見ず知らずの（たぶん近所の）おっちゃんが車を寄せて話し掛けて来ます。「おい、家へ帰るんかい？」そうだと答えるとおっちゃんは、家まで送ってくれると言います。「このおっちゃん誰なんだろう」そんな疑問すら持たず、私は喜んで助手席に乗り込み、送り届けてもらっていました。

古き良き時代なのか、危険な話だったのか…少なくともそこには、地域と子どもとの信頼関係がありました。

子どもたちの成長の場は、大きく三つに分けて考えられています。「家庭」「学校」そして「地域」。この三つの連携が不可欠とされる中、成長の場としての「地域」は衰退に至っています。主たる原因の一つは、犯罪／不審者等への警戒。地域は信頼を失い、子どもたちは外で遊ぶ時間が減りました。

知らない人がいたら疑ってかかること。そんな残念な躾をしなければならない時代に、私たちは「信じる」という清らかで自然な心の有り方を、意識を持って彼らに伝えていかなければいけません。私たちは子どもたちを信じ、同時に信頼される大人でなければいけません。

「まなぱる」という看板の下、私と同志たちは主に放課後の子どもたちと関わっています。英会話や英語などを教えているので「学習塾」と解されることも多いですが、私たちの活動指針は「地域」の立場で子どもたちの成長を見守ること。人生の楽しさや人と信じ合うことの喜びを伝えていける、そんな近所のおっちゃんたちになりたいわけです。が、私たちの活動はまだまだ未熟です。

「地域」は再建に向け、まだ多くの可能性を秘めています。子どもたちの健全な成長を願い活動している人々もたくさんいて、彼らの「居場所」が他との良質な相互承認によって生まれるということも皆知っているのです。そんなハートある大人たちがもっともっと横に繋がって、家庭や学校とも手をとりあうことができれば、スポットとしてではなく地域全体が、子どもたちの成長の場として機能するはずです。

子どもたちの故郷が、人々の信頼関係で満たされた場所となるように。新たな時代に見合った温かな地域をみんなで開拓していきたいものです。

初出『上毛新聞』「視点」
2013 年 4 月 5 日 (p.15)

《太田琢雄略歴》青森県弘前市生まれ。新島学園高校・アメリカ、カリフォルニア州のコンコーディア大学卒。帰国後前橋市にある中央高等専門学院で七年間の教員生活を経て二〇〇九年退職。研究所の活動として「まなぱる」を設立。地域の立場で教育活動を実践している。

まなぱるの Course Schedule

＜英会話・英語＞（未就学～大人まで）

◎こども英会話くらぶ
未就学：45 分、小学生：50 分
月謝 4000 円/レッスン週一回、月 4 回程度

◎会話+文法 英語クラス　小 3～小 6
月謝 5000 円/週一回　50 分

◎個別指導 英語教室　中高生・大人
受講料 中高生 2000～2500 円

◎個別指導 算数・数学
小 1・2 年 1 回 60 分　週 1 回/月謝 4000 円
小 3～6 年 1 回 60 分　週 1 回/月謝 5000 円
中学生　1 回 75 分/2000 円

他にも
◎中学生対象
5 教科コース/英語コース/数学コース
◎不登校・ひきこもり支援
－学習サポート＆相談室－
◎少人数制　中学 5 教科コース／数学コース
などなど、教育に関して何でもご相談ください。
TEL:027-386-8499 FAX:027-386-9000
MAIL: mail@manapal.jp
BLOG: http://manapal.gunmablog.net

メールアドレス変更のお知らせ
まなぱるの新しいアドレス：mail@manapal.jp
以前のアドレス（manapal@auone.jp）は 9 月まで使用可能です。

うれしいメールをいただきました

多文化交流 in マランでは、研究所副所長の菅ケ谷マコさんのご指導のお蔭で毎年素晴らしいプログラムを組んでいただいています。マコ先生のご両親は静岡県の藤枝にお住まいで、研究所の活動を日頃から支えて下さっています。今回うれしいメールをマコ先生の母上からいただきました。ご本人のご承諾を得て、ここに掲載させていただきます。

太田先生
春爛漫、さまざまな花が一斉に咲き誇り、美しい季節となりました。
まだ寒さ厳しい３月より４月にかけて、多文化交流事業また、若者たちの卒業と旅立ちの季節の中、ご多忙な日々であられることと、お察し申し上げます。お元気にお過ごしでいらっしゃいますか？
「多文化交流 in マラン」、大変お世話になりました。特に今回は私の友人紺野輝代さんと、姪の次女江口奈々美が素晴らしい体験をさせていただき、感謝申し上げております。マランでは、今回も現地学生さん方、大活躍くださいまして、大成功の裡に完了できたのも、皆様のご協力のおかげと感謝いたしております。
紺野さん、奈々美さんのお二人より、それぞれ楽しかった体験話を聞くことが出来ました。ホームステイプログラムもご配慮くださったようで、友人は、日本体験おありのご両親ともいろいろお話しでき楽しかったようです。若者フィーバーには少しついていけなかったようですが、それなりに現代の若者模様を驚きながらも、観察してきたようです。
写真もたくさん見せていただけました。太田先生も終始行動をともにされ、若々しさに敬服いたしております。奈々美さんは、今回の体験の旅、大変感動して、喜んでいました。　もう一度インドネシアの食文化をにみに行きたいなど申しておりました。皆様が貴重な体験として素晴らしい思い出ができましたのも、先生方の緻密な計画と、長年培ってこられた、異文化への理解の深さあればこそと感じております。
実は、静岡の私の同世代の友人たちが、このプログラムを知り、関心を深めております。　またお世話になるかもしれませんが宜しくお願いいたします。
貴研究所の会報、楽しく拝読いたしております。また次号、皆様の感想文も楽しみにいたしております。さまざまな分野で活動をしている研究所、ますますお忙しい活動の日々と思います。　どうぞくれぐれもご自愛ください。

菅ケ谷由美子

☆会費納入とご寄付の感謝とお願い☆

皆様から、思いをはるかに超えたサポートをいただき心から感謝しております。二年後の認定ＮＰＯ法人格取得を見据えながら着実に研究所の活動をを続けて参ります。お一人でも多くの方に国際比較文化研究所の活動を知っていただき、支えていただけるよう努力していく所存です。多文化交流活動、まなぱる活動、インドネシアからの招聘活動へのさらなるご協力をお願いします。いずれの活動も皆様のご協力なしには継続できません。支えて下さる方の輪が広がるよう、お力添えをお願いします。

年会費は個人が２０００円です。いつものように会費をすでに頂戴している方にも振込用紙を同封させていただきますが、これはご寄付下さる方のため、また新入会員をお誘いいただくための振込用紙です。

決してご寄付を強要するものではありません。

会費･寄付（2012. 3. 18. ～2013. 3. 31. ）　＜敬称略・順不同＞

半月ほどの間に次の方々からご寄付をいただきました。有難うございます。

＜インドネシア招聘・多文化交流＞菅ケ谷由美子、太田知子、紺野輝代。
＜まなぱる＞太田知子。
＜一般寄付＞内野春香、杉浦隆一、太田知子、岸秀樹、斎藤宏、堀越美津子、大江士、五十嵐典子、前田武男、鈴木布美子。

編集後記：◇2012 年度の最後のニューズレターを 3 月に発行してから、まだ一か月も経ちません。しかし、今年の総会を例年の 5 月末から諸般の都合で 5 月 11 日に開催することとなり、急遽 2013 年度最初のニューズレターを発行する事となりました。
◇現在、群馬在住の学生たちが、今年の夏の「多文化交流 in ぐんま」の準備を始めています。実に心強い若者たちですが、立ち上げるにはホストファミリーや食事ボランティアの協力が必要になります。皆様お一人お一人に出来る形でのご協力をお願いします。予定は 8 月 9 日から 12 日です。
◇今年の多文化交流 in マラン参加者の中から、「多文化交流 in 静岡」を立ち上げようとの熱い動きが出てきています。まだ模索段階ですが、なんとか形になるよう願っています。こちらもまた皆様のお力添えが必要になることでしょう。よろしくお願いします。

（T）

Newsletter 発行：特定非営利活動法人国際比較文化研究所
事務所：〒379-0124 群馬県安中市鷺宮３４１３－３
電話：027-382-5998　FAX：027-382-6393
e-mail：mtharunac@xp.wind.jp
HP：http://www8.wind.ne.jp/mthc
MANAPAL ブログ:http://manapal.gunmablog.net/e80854.html
郵便振込口座番号：00510-0-61974　名称：国際比較文化研究所